

●●活動報告●●

10月21日 男女平等EXPO高岡2017に参加して

講演会：航空会社社員からソムリエへ

講師：扇谷 まどか さん (The Opener 株式会社 代表取締役)



黒部市出身で、日本航空グループに9年勤務後、現在はソムリエとして、企業経営者として活躍されている「The Opener 株式会社」代表取締役の扇谷まどかさんが、「航空会社社員からソムリエへ」と題し、ご自身の経験を通した、今年の男女平等EXPOのテーマである「夢をカタチに変えるコツ」について講演されました。

英語が大好きで、英語を使う仕事を夢に見ていた学生時代、新設されたばかりの桜井高校国際科に入学。在学中に海外派遣の機会を得てアメリカを強く意識するようになり、関西大学英米文学科で学びを深めた頃のお話しに始まり、日本航空グループに入社後、憧れる女性の先輩や上司に将来の自身の姿を重ね、立身出世を目指して積極的に実践を繰り返して次々と実績を挙げるも、男女の待遇の格差や、年功序列の壁に阻まれ、実力無関係の憂いに会ったことから退職を決意した経緯など、それぞれのターニングポイントでの心境や、方向性を決定づけた成功体験と失敗談、その中で気づいたことなど、様々なエピソードを交えながら、経験者が語る説得力のあるお話が続きました。

現在の仕事となるワインビジネスへの思いは、ロサンゼルス空港勤務時代にアメリカのワイナリーで見た広大で美しい自然と、そこでのびのびと働く人々の姿が非常に印象に残ったことが原点。そして更に、自分を魅了する数々のワインとの出会いがワインビジネスへの決意を固めるにつながったとのこと。

自分自身の価値観を見極めて、自分が好きで且つ自分のやりたい事を、最大限にやっていることで、実現に向けての道筋がより具現化し、自ずとカタチとして必然的に現れてきていると感じました。

東京・六本木で「ラ・シャンデル」「ル・クール」という2店舗を経営し、ソムリエとして日々お客さんに楽しんでもらうことを大切にしながら、今後は、全世界で通用する資格「マスター・ソムリエ」を目指しつつ、56歳での引退を目標に経営計画書をまとめているとのこと、未来の姿を鮮明にイメージした上で、「今現在を如何に過ごすか？」を考えながら、コツコツと行動を積み上げることが「夢をカタチにかえるコツ」だと印象に残りました。(松本 光司)



11月16日(木) 11月度定例会(法律部会主催)

講演会：昆布をもっと知ってもっと美味しく！

講師：株式会社 室屋 富松 光香 さん

「富山県は昆布の消費金額が、全国でトップクラスと言われるが、実際はどれだけ消費しているかご存知ですか？」という質問から始まった今回の定例会。

講師をお願いした富松さんは、家業の昆布店において営業企画を担当されながら、2人のお子さんの母親という二足のわらじをこなされている素敵な女性。語り口も柔らかく、お話を聞いている私たちも思わず笑顔になります。

冒頭の質問の答えですが、実は2,000円とのこと。

実際はもっと食べている様な感じがしていましたが、意外と少ないと感じます。

北海道で生産された昆布が、なぜ富山県に入ってきて消費されるようになったかということ、北海道を開拓した作業夫の多くが富山県出身者で、地元にお土産として送った事が起源との事で、他にも昆布にまつわる興味深いお話をしてくださいました。

富松さんは自身のお子さんを始め、若い世代の方にも富山県の魅力である昆布を通して、女性の目線から様々な魅力を発信していきたいとの想いが十分に伝わった講演会でした。(指崎 一匡)

編集後記

2年前推進員を引き受けた時、長きにわたり地道な活動を続けてきた推進員の存在を初めて知りました。

男女共同参画について、自分なりに考え学んだ2年間でした。特に社会で活躍されている女性の話を聞かされた時に、大きな刺激を受けました。

この2年間で学んだことを、少しでも周囲の人に伝えられたらと思います。(大田真由美)

広報部員

副会長 松本 光司

部長 指崎 一匡

七軒 祐子

平島 充

大田真由美

山田 好子



東持くん 利長くん



平等・開発・平和

ともだち共立

第24号 富山県男女共同参画推進員高岡連絡会

推進員を経験して

庶務 中山 真紀



「まずは参加！」私はいつも、そんな気持ちで地域の活動に参加しています。参加することで沢山のひととご縁に恵まれるだけでなく、数々の体験を通して多くの学びや気づきを得られることを、これまでに身をもって経験してきているからです。4年前に男女共同参画推進員のお話を引き受けた際も、活動の内容や役割などはあまり理解していませんでしたが、毎月開催される定例会や各分野で率先垂範する方を講師に招いて開催する講演会に参加するうちに、「男女共同参画社会」を推進する、とても多くの取り組みが行われていることを知りました。

その中でも、私が注目したのが「ワーク・ライフ・バランスの実現」に向けた取り組みです。ワーク・ライフ・バランスとは、働くすべての人々が「家事」「子育てや介護」「趣味や学習」「休養」「地域活動」といった仕事と仕事以外の活動との調和を図り、その両方を充実させる「働き方・生き方」のことです。

ワーク・ライフ・バランスの実現のためには、働く本人の努力のみならず、家庭、職場、地域の協力が不可欠です。家庭では「家族が家事や子育て、介護を分担し、それぞれがリフレッシュできる自分の時間を確保できること」、職場では「働く人の意欲を引き出し、能力の向上につながる取り組みに加え、長時間労働の削減や、育児・介護休業を取得しやすくする取り組み」、地域においては「働く人が安心して働くことができるよう、子育て・介護などの支援体制を整備する」などの取り組みが求められています。

ワーク・ライフ・バランスを推進する事業所の社長から、自社の取り組みについてのお話を聞く機会がありました。女性社員が結婚や出産を経て、ライフスタイルが大きく変化した後でも、無理なく働くことを可能にする「時間短縮勤務制度」の導入や、一度退職した社員でも職場復帰を容易にする「退職者の再雇用制度」の導入など、働く人がそれまでに培ってきたスキルを活かして働き続けることができるよう、積極的に職場環境を整えていってほしいとのことで、働く人の立場に立ったとても素晴らしい取り組みだと思いました。また、同時にこのような「働きやすい職場環境づくり」を進める事業所がこれからも増えていってほしいとも思いました。

多くの家庭で夫婦共働きが当たり前になっている今、まずは一番身近な家庭生活において家事や子育ての負担がどちらかに偏ることなく、互いに協力し合って家庭内の役割を分担し、各々がより充実した日常生活を送ることが、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた第一歩に繋がるのではないかと考えます。

これまで2期4年の間、推進員として務めさせていただいたことは、私にとってはとても貴重な経験となりました。これからも推進員として学んだことを活かして様々なことに取り組んでいきたいと思っています。

悩んでいることは ありませんか ひとりで悩まないでご相談ください

DV(配偶者や交際相手からの暴力) 家庭や職場のトラブルや悩み事など

高岡市男女平等推進センター相談室 TEL 0766-20-1811



平成28年度の 主なデータ	相談件数:	3,150件(延件数)
	主な主訴:	①DV 1,516件(48.1%)
		②生き方 426件(13.5%)
		③精神保健 394件(12.5%)
	年齢別:	①40代 1,499件(47.5%) ②30代 735件(23.3%)

相談時間 9:30~16:30 月・火・水・金 14:00~20:00 木

【電話相談】【面接相談】(面接相談は予約が必要です。) ※休館日は、毎月第4月曜日・12月29日から翌年の1月3日です。(相談業務は毎週土曜日・日曜日と祝日がお休みです。)

高岡市末広町1-7(ウイング・ウイング高岡6階) ●高岡駅前

相談室より

相談室では一人ひとりの気持ちや考え方を尊重し、相談者自身が自分の力を発揮して問題解決に取り組んでいけるようなサポートを行っています。

電話相談や面接の中で相談員とともに問題を整理しながら、今後の見通しをつけていくための知識や情報も提供しています。

ミニ地区懇談会

10月15日 牧野校区

講演会：「“見えますよ！あなたの大切な子が”DVの実態から見えること ～子どもたちへの影響は～」

講師：高岡DV被害者自立支援基金 パサパ代表 向 富士子 さん



牧野地区は、若い世帯が増えて保育園不足が叫ばれている所です。4月に保育園が新設予定で、不足はなんとか解消されそうですが家の中はどうでしょう？若い夫婦と子供だけの世帯が多く、夫婦共働きのため時間に限りがあり、自由の利かないそのイライラが子供に向かないか少し心配になります。

今回の懇談会“見えますよ！あなたの大切な子が”は、子供たちが受ける影響について意識して欲しくて企画しました。DVと聞くと身体的な暴力が一番に考えるとありますが、それよりも心に残る“言葉の暴力”を忘れないで欲しいのです。お父さんがお母さんに大きな声で怒鳴っている、それを見聞きした子供の心にはそのままの様子が残っているのです。いつもは優しいお父さん、お母さんが別の人になっているのです。そんな事を考えたことがありますか？子供は親のありのままの姿を見ています。親が不安そうにしていると子供も不安になり、親が楽しそうにしていると、子供も自然と笑顔になるはず。親子になったのですから楽しい親子でいてください。子供にとってはこれからの長いのです。楽しく一生を過ごせるようにするのは親のあなたですよ！ (七軒 祐子)

11月24日 成美、能町、万葉校区 合同

講演会：「女性として輝きを持ち続けるコツ」

講師：山本 志乃さん



男女平等・共同参画の理念に基づき、2年間活動してきた志貴野ブロックの推進員6名で企画しました。

講師の山本志乃さんに『女性として輝きを持ち続けるコツ』という演題で陸上競技長距離種目の元富山県チャンピオンとしてのご自身の食に対する経験、アスリートとしての大事なこと、試合前後の食事の仕方を講義していただきました。アスリート⇒主婦⇒アスリートフードマイスターとして活躍する山本さんを参考に、参加していただいた方には社会の中にはいろいろな役割があって、いろいろな参画の仕方があり、地域や職場や家庭や趣味のサークルといったコミュニティで、どんな形で役割を担い、どんな形で参画していくかをそれぞれの立場で考えていただければと思います。 (沖 康一)

1月21日 国吉校区

講演会：「認知症とその対応について」

講師：五位、国吉地域包括支援センター 橋本美代子さん 他 職員 4名

今後必ずやってくる高齢化、介護は、私を含め誰もが経験する問題かと思えます。今回は、認知症について、女性の会の場を利用させていただき、現在現場で働いておられる職員の皆様に、寸劇を交えて楽しく話をさせていただきました。寸劇では、近頃物忘れや足腰が弱くなって落ち込んでいるおばあさんとその家族のやり取りを見せていただきました。笑いの中に周りの人の言い方ひとつでおばあさんの気持ちが沈んだり前向きになったりします。忘れたり、できない事を責めずに行うことができないか考え工夫し励ますことの大切さを理解することができました。質疑応答は参加者の関心の高さを感じましたが、最後に、「これはほんの一例で人によって状況は様々。どんな些細なことでも早めに相談してください。」という地域包括センターの皆さんの言葉が頼もしく安心できました。 (山田 好子)

民間支援基金パサパは皆様の支えで成り立っています！



DV被害者が、自立の一步を踏み出すための一時支援金を無利子で貸出します

DV(ドメスティック・バイオレンス)問題は社会認知もされ、徐々に支援の輪も広がっています。しかし未だ被害の相談件数は増加しており、子どもへの影響も深刻な問題になっています。パサパは、誰もが安心して暮らせる、何事も暴力で解決しない社会を願って活動します。

賛同するみなさんの会費・寄付で運営しています。あなたのサポートをお願いいたします。

〈会費・寄付振込先〉

ゆうちょ銀行〇七九店(079)当座預金口座番号 0057876
口座名 サポート基金パサパ
問合せ先:080-6358-0838

パサパって？
フランス語で、「一歩一歩」という意味です。

2月22日 南条校区

講演会：「男女共同参画ってなあに？」

講師：光徳保育園 園長 安居 登さん



四コマ漫画の簡単なクイズがお話しの始まり。旦那さんが単身赴任で奥さんを残して自宅を離れる事に。一人で家事洗濯をこなせる様にとトレーニング開始！掃除機の前には奥さん、そしてその隣にはエプロン姿の旦那さん、両者頭上の吹き出しがブランクになっていた。さて、お互い何と言っているのでしょうか。夫の不器用さにあきれられる妻の嘆き。とか、ここぞとばかりに普段の憂さ晴らしと夫を叱りとばす様である。とか…いくつか出揃ったあと、さてその回答はというと、なんとトレーニングを受けているのは妻の方。普段から家事洗濯は夫任せ。やれ困った困った(笑)と奥さんが頭を抱える。そういうお話。

これは、私たちが普段から、男であるからこうである！とか、女であるからそれやるの当たり前！とか、先入観で人を見ている事を表現していました。ちょっと見方を変えてみませんか？というお話。まずはそこから！と。少子高齢化や経済情勢の変化に対応するため、男女が性別に関係なく個性や能力を發揮する社会を実現すること。その第一歩を、面白おかしく漫画や講師の実体験を交えてお話いただいた約一時間の講演会は、とても楽しく一瞬のうちに時間は過ぎました。(平島 充)

2月27日 伏木、古府、太田校区 合同

講演会：「地震に備えよう！地震の理解・日頃の備え」

講師：高岡市役所総務課危機管理室 自主防災アドバイザー 李大 栄信 さん

今回、3校区合同でミニ地区懇談会を初めて開催しました。3校区共に、地震や豪雨といった自然災害が起きた際に、高岡市のハザードマップ上では赤く「危険」と表示されている地区であり、老若男女問わず防災に対しての不安を抱いていたため、今回の懇談会を企画しました。



講演の中では、実際の写真やデータを使い、日頃の備えや対策について分かりやすくお話しさせていただきました。

また、女性の立場から避難所を考えたとき、過去の災害を実際に体験した被災者の方の話によると、老若男女が集まる避難所において、トイレの問題や更衣室、プライバシーが無いことによる不安や、防犯のための照明が必要であるなど、実際に体験しないと分からない状況が多くあることを聞き、女性や子どもが避難する際には、物資の援助だけではなく、気持ちの援助も必要であると知ることができました。

(指崎 一匡)

3月3日 福岡校区

講演会：「おとうさんに教えてあげたいお手軽料理づくり」

講師：濱木 慶子さん(高岡市食生活改善推進員)

料理作りに対する苦手意識を少し払拭したいという自分自身の思いで、勝手にですが今回はこのような企画を組んでみました。「男の料理教室」とうたってしまうと、それこそ自分と同じような抵抗感を抱えた方にはお越しいただけないと思い、男女問わず参加できるタイトルとしました。



結果、当日は男女同数で交じりあい、講師の濱木さん考案の5品目を楽しく作ることができました。実習前には、食品ロス削減「3015運動」について丁寧に説明していただいたおかげで、調理の際には食材をムダに捨てないこと、食事は残さないことを意識しながら充実したひとときとなりました。

(中村 清志)

この広報紙は高岡市のホームページからもご覧いただけます。

ほっとホット高岡 > 暮らし > 男女平等・共同参画 > 富山県男女共同参画推進員高岡連絡会
<http://www.city.takaoka.toyama.jp/gender/kurashi/kyodosankaku/renrakukai/index.html>

